

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
英語	2 単位 進学と留学	英米文学	小林 俊哉	2 年次	春

授業のキーワード	アメリカ文学、イギリス文学、小説、演劇、詩
授業の概要	アメリカ文学とイギリス文学を中心に、単なる文学史や時代思潮の概観にとどまらず、可能な限り作品テキストに直接ふれながら、今日を生きる私たちに訴えかけるメッセージを探り出します。
期待される学習成果（目標）	1. 文学とはどのようなものなのかがわかります。 2. イギリスの時代思潮とその文学の概要を理解できます。 3. アメリカの時代思潮とその文学の概要を理解できます。

授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第 1 講	はじめに	合理主義万能にも見える現代にあって「芸術」とはどのような意味を持つのかについて考えます。	第 9 講	シェイクスピア	四大悲劇を中心に、彼の作風を味わいます。中間課題提出。
第 2 講	論文の書き方	2 回提出してもらう論文について、その仕組み、書き方、考え方などを指導します。	第 10 講	ロマン主義の作家たち	きら星のごとく現れたこの時代の代表作品を、その時代背景も含めて概観します。
第 3 講	文学へのお誘い	「文学」のもつ仕組み、その諸要素について概観します。	第 11 講	ホーソン	代表作『緋文字』に見られる人間模様、原罪と救いなどのテーマについて考えます
第 4 講	文学へのお誘い(その 2)	前講に引き続き、文学の仕組みを概観します。	第 12 講	トウエイン	児童文学としても名高い『ハックルベリー・フィンの冒険』のもつ魅力を探ります。
第 5 講	イギリス文学	イギリス文学の全般を学びます。	第 13 講	フィッツジェラルド	この悲劇がなぜ「華麗」なのか。『華麗なるギャツビー』の緻密な構造を考えます。
第 6 講	イギリス文学	前講に引き続きイギリス文学の特徴を学びます。	第 14 講	ヘミングウェイ	きわめて男性的なこの作家の特質を『日はまた昇る』、『武器よさらば』の二作品を通して概観します。
第 7 講	アメリカ文学	アメリカ文学の全般を学びます。	第 15 講	アメリカの現代作家	第 2 次世界大戦以降のアメリカに生きたミラー、ウィリアムズ、ペロー、ボネガットなどの作品を概観します。
第 8 講	アメリカ文学	前講に引き続きアメリカ文学の特徴を学びます。	定期試験		指定された英米文学の一作品を読み、論じるテーマを絞り、それについての短い論文(400 字詰め原稿用紙で 10 ペ
評価方法		中間課題 40% 期末論文 60%			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
西田実 『アメリカ文学史』（成美堂）					